

害鳥図鑑

2015 年 2 月 5 日版

(国研法人)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター

鳥獣害グループ（編）

この図鑑は、現場で鳥獣被害対策を指導する方の参考となることを目的とし、主要な農業害鳥の識別のポイント、生態等について写真を多用して解説したものです。

利用にあたっては、このままの形で配布・掲示等を行い、編集や加工をしないでください。一部または全部を他の資料等へ転載することを希望する場合は鳥獣害グループに連絡してください。公刊資料ではないため、引用はできません。

ハシボソガラス

全長：約 50cm 嘴の長さ：約 5～6cm 分布：日本全国（沖縄ではまれな冬鳥）

特徴：全身黒色。嘴は細めですんなりしている。額の羽毛は通常寝かせているのでなだらかに見える。地上を歩いて採餌することが多い。ガァァ、ガァァと濁った声で鳴くが、あまり頻繁には鳴かない。

食害：雑食性。果樹（落葉果樹、柑橘）、果菜類（トマト、スイカ、スイートコーンなど）を中心に、比較的カロリーの高い作物は何でも食べる。キャベツやばれいしょの食害も報告がある。播種期のトウモロコシおよび直播水稻では、出芽した苗を引き抜いて種子部分を食べる。



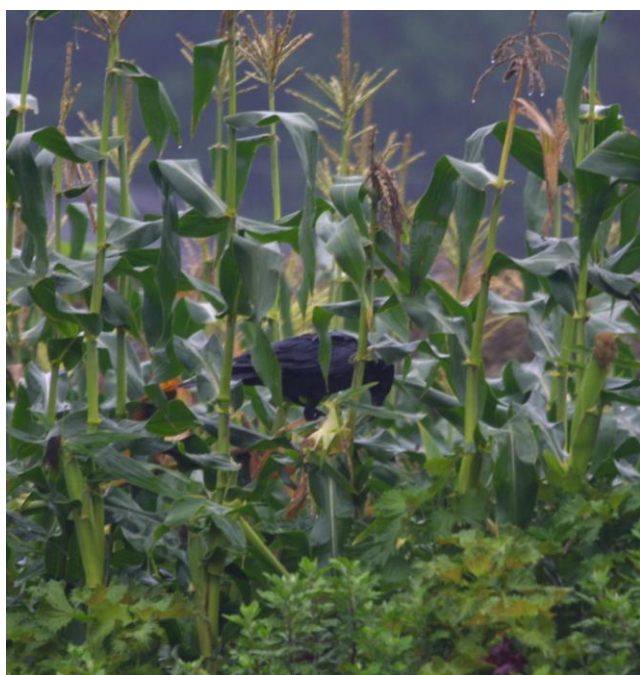
水田で昆虫や小動物を探す。地上を歩いて採餌することが多い。

2006年5月17日 茨城県 吉田撮影



巣の近くの電柱で見張りをする。額の羽毛は通常寝かせているので、なだらかに見える。

2005年4月8日 茨城県 百瀬撮影



スイートコーンを食害するハシボソガラス

2005年7月14日 茨城県 百瀬撮影



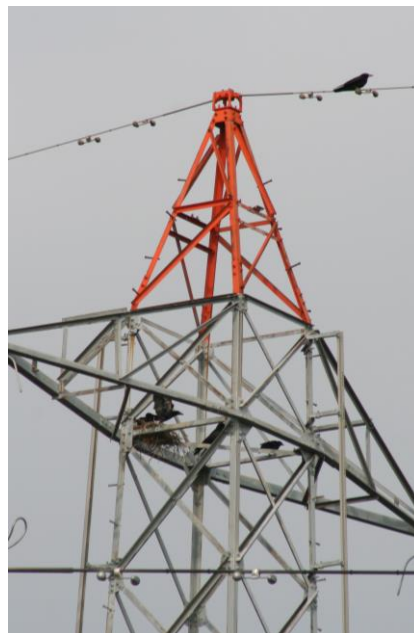
ゴミ箱をあさる。餌をノドに貯めているので、ノドがふくらんでいる。

2005年4月21日 茨城県 百瀬撮影



ケヤキに巣を作ったハシボソガラスのつがい

2006 年 4 月 23 日 茨城県 吉田撮影



高圧鉄塔に作られた巣。巣上にはヒナ、鉄塔頂部の線には親がいる。

2006 年 5 月 22 日 茨城県 吉田撮影



ハシボソガラスの巣立ちヒナ ↑→

カラスの巣立ちヒナはよく遊ぶ。

嘴の根元と口内が赤い。成鳥の口内は黒い。

茨城県 吉田撮影 2006 年 5 月 22 日 ↑

2006 年 5 月 31 日 →



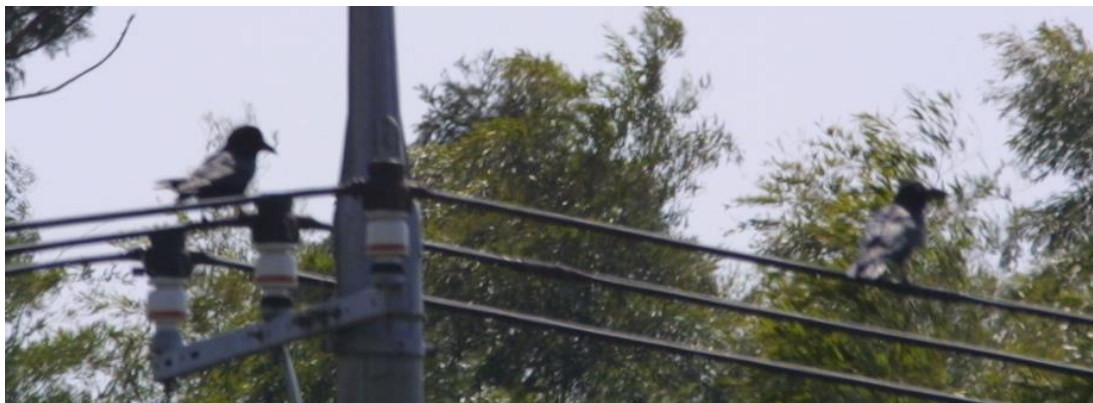
生後約 6 ヶ月の若鳥の口内。ピンク色の部分が多い。成鳥の口内は黒くなる。

2006 年 11 月 28 日



成鳥の顔。近くで見るとハシボソガラスの嘴もかなり太く見える。

2005 年 1 月 27 日



なわばり争いをするハシボソガラス（左）とハシブトガラス（右）。

威嚇の際、ハシボソガラスは頭の羽毛を逆立ててふくらませる。

2005 年 4 月 27 日 茨城県 百瀬撮影



ハシボソガラスは 1 声ごとにおじぎするように頭を上下させて鳴く。

1994 年 4 月 茨城県 吉田撮影



ハシボソガラスの親子。最も遠い 1 羽が親、手前の 4 羽は巣立ちヒナ。巣立ちヒナ数は 2～3 羽の場合が多い。巣立ち後も 1～3 ヶ月は親子で行動する。

2005 年 6 月 14 日 茨城県 百瀬撮影



カラスの足跡。地上を歩くことが多いハシボソガラスのものと考えられる。

手前に写っているのは比較用のボールペン。

2004 年 2 月 25 日 茨城県 吉田撮影

ハシブトガラス

全長：約 56cm 嘴の長さ：約 6～7cm 分布：日本全国

特徴：全身黒色。嘴は太く、上嘴の湾曲が目立つ。額の羽毛を立てているので出っ張って見えるが、驚いたりしたときは羽毛を寝かせてしまい、ハシボソガラスと間違えることがある。地上を歩くことは少ない。カア、カアと澄んだ声で頻繁に鳴くが、ときには濁った声も出す。

食害：雑食性。果樹（落葉果樹、柑橘）、果菜類（トマト、スイカ、スイートコーンなど）を中心に、比較的カロリーの高い作物は何でも食べる。キャベツ、ばれいしょ、播種期のトウモロコシ等の食害も報告がある。



太く湾曲した嘴をもつ。額の羽毛を立てているので、おでこが出っ張って見える。

2005年4月6日 茨城県 百瀬撮影



2005年4月5日 茨城県
百瀬撮影



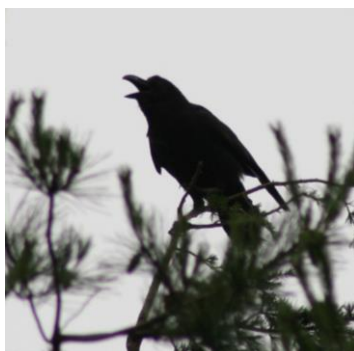
鳴くときは軽く翼を持ち上げる。
口の中が黒いので、この個体は成鳥である。

2007年1月 山梨県 吉田撮影



額の羽毛の立て具合と、見る角度によってはこのように額がなだらかに見える。

2006年6月15日 茨城県
吉田撮影



繁殖中の個体に近づくと、観察者に対して威嚇鳴きをしたり（上写真）、小枝をむしり取ったりすることがある（下写真）。襲ってくることはまれであり、来ても後ろから飛びながら足で蹴る攻撃なので、傘をさす等で対処できる。

2006年6月15日 茨城県
吉田撮影



ハシブトガラスの巣立ちヒナ。口の中が赤い。
巣立ったばかりは尾羽が短く、上手に飛べない。

← 2005 年 5 月 17 日 茨城県 百瀬撮影

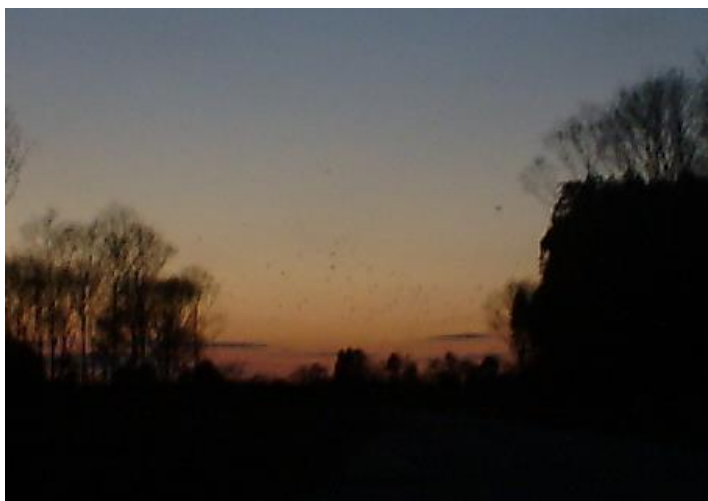
↑ 2005 年 6 月 15 日 茨城県 百瀬撮影



高圧鉄塔に作られたハシブトガラスの巣。
ヒナの 1 羽は巣の上、もう 1 羽は巣の外に
いる。カラスのヒナは十分に飛べない状態
で巣立ち、1 週間から 10 日は巣の周囲で親
が餌を運んでくるのを待っている。

2005 年 6 月 1 日 茨城県

吉田撮影



秋から冬にかけては、多数のカラスが
林などに集まって眠る。これを「ねぐ
ら」という。ねぐらに入る前は大群で
上空を飛び回ることが多い（見えにく
いが写真中央付近）。

2004 年 2 月 27 日 茨城県 吉田撮影



収穫後の芝生くずの山にハシブトガラスが餌を
隠していたので、中をめくってみるとシューク
リームであった。生ゴミはカラスの格好の餌で
あり、豊富な生ゴミはカラスの数の増加につな
がる。ゴミ置き場には侵入対策が必要である。

2005 年 3 月 18 日 茨城県 百瀬撮影

スズメ

全長：約 14.5cm 嘴の長さ：約 1cm 分布：日本全国

特徴：上面は茶色に黒の斑点があり、下面は汚白色。若鳥は全体に色が薄く、頬の黒斑もほとんどないが、生まれた年の秋に換羽して親鳥と同じ羽色になる。

食害：水稻の乳熟期には群れで食害する。ヒマワリやムギも食害する。水稻直播では、出芽した苗を引き抜き、籾殻をむいて胚乳を食べる。春から夏にかけては昆虫を多く食べ、秋から冬にかけては種子を多く食べている。



屋根に止まるスズメ
2007年1月 山梨県 吉田撮影



肩と腰の羽毛の乱れた部分が灰色に見える。
2006年5月28日 茨城県
吉田撮影



スズメの親子。ヒナは全体に羽色が淡く、頬の黒斑もほとんどない。

2000年5月12日
茨城県
吉田撮影

ヒヨドリ

全長：約 27.5cm（スズメより大、ハトより小） 嘴の長さ：約 2.5cm 分布：日本全国

特徴：全身が灰色で頬が茶色。ムクドリに比べて尾が長く、足は短い。葉菜類や雑草の葉を食べる時を除き、地上に降りることは少ない。ピーヨピーヨと甲高い声で鳴く。

食害：さまざまな果樹と冬の葉菜類を食害する。特にカンキツの被害が多い。葉菜類ではキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー等で食害が多い。ケヤキ等の樹木の新芽も食べ、キウイフルーツの新芽を食害したという報告がある。桜やツバキなどの花蜜も好む。



庭木に刺したミカンを食べに来たヒヨドリ
2007年1月 山梨県
吉田撮影（2枚とも）



頭の羽毛はボサボサしている
2007年1月9日 茨城県
吉田撮影



キャベツを食害する群れ 2007年1月25日 茨城県 吉田撮影

ムクドリ

全長：約 24cm (スズメより大、ハトより小) 嘴の長さ：約 2.5cm 分布：日本全国

特徴：褐色で顔、腰、尻が白い。嘴と足はオレンジ色。樹洞に営巣する性質があることから、雨戸の戸袋などに巣を作るのはムクドリである。夏から秋にかけ、各地で繁華街の街路樹等に大群で集まって眠るために糞や騒音が問題となる。

食害：昆虫と果実を食べるため、さまざまな落葉果樹を食害し、特にナシの食害が多いようである。ショ糖を消化できないため、ムクドリはカンキツを食害しない（カンキツはショ糖が多い）。



顔、腰、尻が白く、嘴と足はオレンジ色。

群れることも多い。

2006年4月22日 茨城県 吉田撮影 ←↑



庭木のオウトウ（さくらんぼ）を食害

2004年5月7日 茨城県 山口撮影



芝生で昆虫を探す。雄のほうが黒味がつよいが、識別は難しい（右が雄、左が雌）。

2006年4月30日 茨城県 吉田撮影

類似種：ツグミ



全長：約 24cm 分布：日本全国に冬鳥として渡来

特徴：地上で行動することが多く、大きさもムクドリに似ている。翼の赤褐色が目立つ。

食害：昆虫と果実を食べ、取り残したカキなども食べるが、渡来時期には収穫が終わっている場合が多く、被害は少ない。

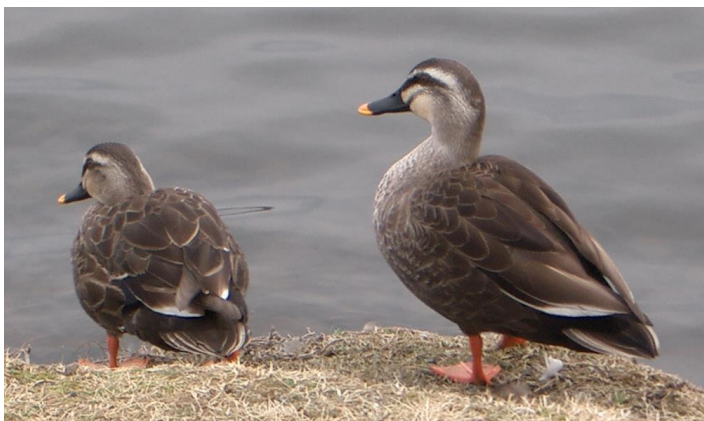
2006年12月20日 茨城県
吉田撮影

カルガモ

全長：約 60cm 嘴の長さ：約 5cm 分布：日本全国に留鳥

特徴：全身が褐色で足はオレンジ色。嘴の先が黄色い。嘴先端の黄色は他のカモ類にはないカルガモの特徴。カモ類は雄が色鮮やかな種が多いが、カルガモは雌雄同色。他のカモ類はほとんどが冬鳥だが、カルガモは一年中いる留鳥。

食害：湛水直播水稲では播種後から種籾を食害するが、落水管理を行えば被害を軽減できる。収穫期の水稲では、倒伏していなければ被害は畦際のみで発生するという報告がある。水稲以外では、キャベツを食害したという報告があり、レンコンも食害している可能性がある。作物の食害は主に夜間に起こるが、安全と判断した場所では昼間も行動する。



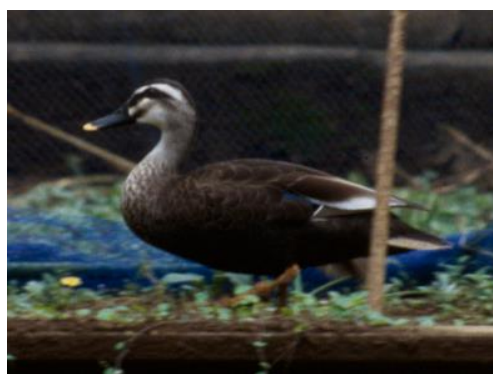
カルガモは嘴の先端の黄色が特徴
2005 年 3 月 20 日 茨城県
山口撮影



水辺で休むカルガモ
2006 年 4 月 22 日 茨城県 吉田撮影



2006 年 5 月 22 日 茨城県 吉田撮影



2001 年 8 月 28 日 (飼育個体)
吉田撮影

カワラヒワ

全長：約 14.5cm (スズメくらい) 嘴の長さ：約 1cm 分布：日本全国

特徴：雄は全身緑褐色で雌は全体に淡色だが、雌雄の見分けは難しい。幼鳥は淡褐色で下面に縦斑がある。どの性別年齢でも翼に黄色帯があり、飛ぶと目立つ。群れることが多い。

食害：さまざまな植物の種子を食べる。油分の多い種子を好み、ヒマワリやナタネを食害する。収穫前の水稻の食害もあるという。種子類以外では、チンゲンサイの葉を食害したという報告がある。スズメと同大のため、スズメによる被害と混同されている可能性がある。



← 左右とも →
胸に縦斑があるので幼鳥。秋に換羽し成鳥と同じ羽色になる。

2006年9月10日
茨城県
吉田撮影



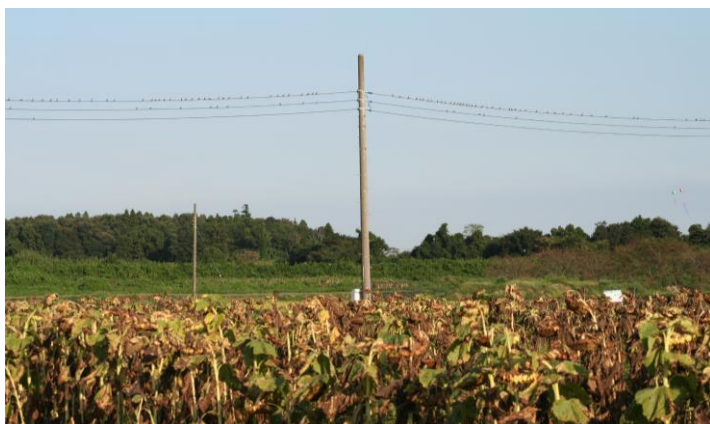
全身が褐色で緑色味が少ないことから雌成鳥と思われる。

2006年10月16日 茨城県
吉田撮影



雄成鳥は全身に緑色味があり、翼の黄色部分も目立つ。木の梢などでキリキリ、コロコロ、ビーンとさえずる。

1992年2月または3月
茨城県
吉田撮影



ヒマワリ被害圃場の横の電線で休息する群れ

2006年9月10日 茨城県 吉田撮影



食害された花托。キジバトも食害していた。

2006年9月10日 茨城県 吉田撮影

飛ぶと翼の黄色帯が目立つ点がカワラヒワの特徴。

2006年10月16日 茨城県 →

2006年10月17日 茨城県 ↓

吉田撮影



カワラヒワまたはスズメによる食痕。これら2種は種皮をむいて食べる。キジバトは種子をそのまま食べる。

2006年10月17日 茨城県 吉田撮影

キジバト

全長：約 33cm 嘴の長さ：約 2cm 分布：日本全国

特徴：全身が灰色で、肩の羽毛 1 枚ずつに赤褐色の縁取りがある。首の縞模様は幼鳥にはない。

食害：さまざまな植物の種子を食べる。乾田水稻直播やダイズでは播種時の食害が問題になる。主に地上で採食するため、収穫前の作物を穂から直接食害することは少ないが、ヒマワリでは花托にとまり直接食害する状況が見られた。



麦あとの耕起畑で採餌するキジバト。肩の羽毛 1 枚ずつに赤褐色の縁取りがあり、首には縞模様がある。

2004 年 6 月 30 日

茨城県

山口撮影



ヒマワリを食害。キジバトは種皮をむかずにそのままヒマワリ種子を食べる。

上の写真右から 2 番目のやや褐色味がつよく、首の縞模様がないう体は幼鳥。

2006 年 10 月 17 日 茨城県

吉田撮影 ← 2 枚とも ↑



空き地にこぼれたムギを食べる群れ
2006年6月5日 茨城県 吉田撮影



松の枝にとまるキジバト



羽づくろい

2006年6月19日 茨城県 吉田撮影



のびをするキジバト



キジバトはよく日光浴をする

2006年6月19日 茨城県 吉田撮影

ドバト

全長：約 35cm 嘴の長さ：約 2cm 分布：日本全国

特徴：ヨーロッパ原産の飼い鳩（伝書鳩など）が野生化したもの。餌やりの行われる都市部の公園などに多いが、農耕地にもいる。灰色、濃いねずみ色、栗茶色、白色などさまざまな羽色のものがあり、これらの色の斑のものもある。キジバトより群れる性質が強く、100羽を超える群れもしばしば見かける。

食害：さまざまな植物の種子を食べる。食害対象はキジバトと同様だが、畜舎などに群れるのはドバトが多い。



原種のカワラバトに近い羽色のもの
2006年6月5日 茨城県 吉田撮影



全身が黒っぽい羽色のもの
1998年2月11日 茨城県 吉田撮影



イネ刈り跡で採食するドバト
2006年9月10日 茨城県 吉田撮影

メジロ

全長：約 11.5cm（スズメより小さい） 嘴の長さ：約 1cm 分布：日本全国

特徴：上面が緑黄色で、目の回りに白いリングがある。

食害：甘い物を好み、さまざまな果物を食べる。カンキツ、カキを食べているのを見ることが多いが、嘴が小さく果皮を破る力が弱いので、他種があけた穴から食害することが多い。



2007年1月 山梨県
吉田撮影（2枚とも）

ヒドリガモ

全長：約 48.5cm 嘴の長さ：約 3cm 分布：日本全国に冬鳥として渡来

特徴：雄は全身が灰色で、頭部は栗色で額がクリーム色。雌は全身が褐色。足は雌雄とも黒い。

食害：他のカモ類に比べて草食性が強く、ムギ葉の食害が多い。海苔養殖に被害を与えることもある。



ヒドリガモの雄

2005 年 3 月 24 日

茨城県

山口撮影

カササギ

全長：約 45cm 嘴の長さ：約 3～4cm 分布：九州北部

特徴：カラスの仲間。上面は金属光沢のある黒、下面は白。日本に生息する本種は、豊臣秀吉の時代に朝鮮半島から持ち込まれたものと考えられている。大木や電柱に球状の大きな巣をつくる。

食害：昆虫や果実を食べるため、果樹の食害が問題になる。



全身が白と黒で尾が長い。

1992 年 1 月 佐賀県

吉田撮影



大木や電柱に大きな巣をつくる。

1992 年 1 月 佐賀県 吉田撮影

オナガ

全長：約 37cm 嘴の長さ：約 2.5cm 分布：本州の中部から北部

特徴：カラスの仲間。頭は黒く、上面は淡青色、下面は白。小群で行動し、グェーイ、グェーイとにぎやかに鳴く。

食害：昆虫と果実を食べる。東日本に分布が限られ、個体数も多くないことから全国的に見れば被害は少ないが、リンゴやオウトウ（さくらんぼ）では食害が問題になることがあるという。



名前の通り長い尾
が特徴

2004 年 5 月 7 日

茨城県

山口撮影



庭木のオウトウ（さくらんぼ）を食害

2004 年 5 月 7 日 茨城県

山口撮影

ミヤマガラス

全長：約 47cm 嘴の長さ：約 5cm 分布：九州から北陸を中心に冬鳥として渡来

特徴：全身黒色。嘴はハシボソガラスより直線的で細い。成鳥では嘴の付け根が灰白色であることが識別点になるが、若鳥では黒いためハシボソガラスとの区別が難しい。群れる性質が強く、大群になって開けた水田地帯で落ち粃を採食しているところがよく見られる。



成鳥では嘴の付け根が灰白色だが、若鳥では黒い。遠距離からのハシボソガラスとの識別は難しいが、頭の形がやや角張って見える。

1992 年 1 月 鹿児島県 吉田撮影



群れる性質が強く、大群で水田地帯などに見られる。

1992 年 1 月 鹿児島県 吉田撮影

害鳥図鑑

2015 年 2 月 5 日版

この図鑑は、現場で鳥獣被害対策を指導する方の参考となることを目的とし、主要な農業害鳥の識別のポイント、生態等について写真を多用して解説したものです。

利用にあたっては、このままの形で配布・掲示等を行い、編集や加工をしないでください。一部または全部を他の資料等へ転載することを希望する場合は鳥獣害グループに連絡してください。公刊資料ではないため、引用はできません。

著作権者:

〒305-8666 つくば市観音台 2-1-18

(国研法人)農業・食品産業技術総合研究機構

中央農業研究センター

鳥獣害グループ

Email: koho-narc@naro.affrc.go.jp

<http://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/chougai/>

編集・著作: 吉田 保志子(鳥獣害グループ)

企画・立案: 百瀬 浩(鳥獣害グループ)

資料提供: 吉田保志子、百瀬浩、山口恭弘(鳥獣害グループ)

協力: 川崎敦之(佐賀県農業技術防除センター)

堀江裕一郎(福岡県農政部農業技術課)